

# A 部門：学生の視点から見たオンライン授業

総合福祉学部社会福祉学科 2 年

19FS184 櫻井秀真

## 1.はじめに

2019 年 12 月、現在においても世界を震撼させるウイルスが、中華人民共和国湖北省武漢市で発生した原因不明の肺炎患者から初めて検出され、2020 年 1 月 16 日には日本でも初めて発生が確認された。<sup>1</sup>この未曾有の事態を省みて、日本は 2020 年 3 月 13 日に新型コロナウイルス対策の特別措置法に基づき、緊急事態宣言を発令。<sup>2</sup>国単位での自粛が求められ、人々は不要な外出を避けるようになった。人類は半ば強制的に新たな生活様式へと移行し、教育環境もそれに附随しオンラインツールを活用することとなった。しかし、前例のない取り組みであるがゆえに、限界や新たな課題がとめどなく見つかり、今もなお試行錯誤が各機関で続けられている。そのため、急速な改革に尽力する方々に敬意を表しながら、この「学生の視点から見たオンライン授業」を教育機関としてのさらなる発展に役立てていただけるように論述していく。

## 2.三形態別に見たオンライン授業のメリット、デメリットについて

オンライン授業には大別して三つの形態が存在する。一つ目は同時双方向型授業（ライブ授業）、二つ目はオンデマンド授業、三つ目は資料掲示型授業である。

同時双方向型授業には以下のメリットがある。まず、オンライン授業の中で最も教授との距離が近い点が挙げられる。同時双方向型授業は他の形態にはない性質である Zoom、Google Meet と呼ばれるビデオチャットサービスを用いることで受講者と教授の互いの表情、講義への参加態度を確認することができる。最も対面授業に近い形態であり、正確な受講者への評価が可能である。さらにこのサービスに搭載されている挙手機能、チャット機能のいずれかを用いることで質疑応答、発言のしやすさを向上することができる。これは発言する際の周囲の目といった環境が要因で主体的に主張ができないでいた潜在的、消極的な受講者を顕在的、積極的な受講者へと変化させることができるためである。<sup>3</sup>さらに画面共有機能を用いて PowerPoint 等を受講者の画面に投影させることで教授側の板書の手間を省くことができるうえ、受講者に講義資料をあらかじめダウンロードさせて受講者側の板書の手間も省くことで学習の効率化を図ることも期待できる。

デメリットについては以下のものがある。講義に参加する人数が多いほど同時双方向型授業のメリットである発言の機会が減少し、正確な評価が難しくなる等のデメリットがある。通信環境にも大きく左右され、音声の乱れや画面の乱れが発生する場合もある。さらにはビデオチャットサービスの人数制限により履修者の多い授業には用いることが出来ない点、講義の開始時間、終了時間が指定されているため時間に融通が利かない点、授業を見返すことが出来ない点が挙げられる。

オンデマンド授業は、先述した同時双方向型授業のメリット、デメリットの補完という関係で非常に相性が良いと言える。教授との距離が遠く、リアルタイムでの質疑応答ができない代わりに、受講する日時や時間に融通が利き、受講人数の多い授業に対応が可能である。さらには反復学習を行うことが可能であるため、学習内容の定着につなげることができる。しかし、受講者自身による課題提出や出席といった自己管理が求められ、自己管理が不得意である場合、単位取得に必要な学習基準を満たせなくなるケースも多く存在し、自由度が高い代償にそのような個人の問題が露見するというデメリットが存在する。

資料掲示型授業は他のオンライン授業形態と比較して、最も優れたメリットが存在する。それは通信容量の消費を少なく抑えることができる点にある。同時双方向授業の通信容量については東京大学大学院人文社会系研究科准教授の大村一樹が測定調査を行った。その結果、解像度やカメラ、音声の有無を考慮せずに、1時間当たりを PC 上で視聴した場合でも最低 50~100MB、最大で 1000MB 近くになることが分かっている。<sup>4</sup>これを毎週 5 回、月に 25 回行くと仮定した場合、最低でも 1250MB となり、日本の大学では 1 コマを 90 分行うのが通例であるため、さらに 1.5 倍すると 1875MB となる。これは先述した条件を考慮した場合さらに膨れあがる可能性もある。しかし、資料掲示型講義であれば文章のみの

PDF であれば 1 コマの講義で 1 MB 程度、Power Point であれば 5MB 程度の通信容量でダウンロード、閲覧が可能である。つまり同時双方向授業の 10~50 倍の通信容量の削減率となる。この講義形態を多く採用している大学については千葉商科大学が挙げられる。<sup>5</sup>千葉商科大学では双方向型、オンデマンド型は大容量の通信を必要とする観点から授業内容を静止画、音声を用いて学生の通信費や金銭面での負担を減らす取り組みを行っている。

そして、この授業形態の最も大きなデメリットは、個人で文献や資料を読むことと変わらず、大学の存在を否定することになるという点である。新型コロナウイルスの影響で大学は教育機関としての在り方が問われることとなった。新型コロナウイルス流行前と変わらず学費は据え置きである大学がほとんどで、資料掲示型は支払っている学費が対価として見合わないとして不満を抱える学生が多い。そのため、あくまでも他の授業形態との併用が望ましいと考えられる。

### 3.E-Learning プラットホームを用いることで発生する課題

E-Learning プラットホームとは情報技術を用いて行う学習行動を実施、支援するための学習教材、学習支援システムの総称である。E-Learning プラットホームを導入している大学は多く存在し、本学(東北福祉大学)や東北文化学園大学、宮城学院女子大学では UNIVERSAL PASSPORT を採用している。県内の大学の例を挙げると、東北学院大学では Manaba、宮城大学では Moodle が採用されている。これらの E-Learning プラットホームはオンライン学習を円滑に行うために導入されており、授業の受講者の出欠管理、課題の提示や提出、オンデマンド授業の視聴など多くの機能が備わっている。しかし、便利である反面、使いにくさが際立つ面も見受けられている。

まず、オンデマンド授業の受講履歴が記録されない可能性が存在し、証明としての機能を果たさない場合があることが挙げられる。受講履歴は対面授業における出席の役割を果たしている。受講者側にとってはしっかりと受講し、出席をしたという証明書、つまりは出席票である。しかし履歴が不具合によって残らなければ証明にならない、間違いを指摘できないという問題がある。自動で視聴時間や視聴回数などが記録され、容易に受講態度が確認できるようになったことにより、従来の対面授業の時とは異なり受講態度の数値化、可視化も容易となった。それに伴って受講者にとっての受講履歴の重要性が高まっているため、早急に改善措置を行わなければならない。さらに試験の自動採点機能が言い換え等を正しく反映できない、言葉のニュアンスを上手く理解することができないことで実力を正しく成績に反映することが出来ない問題がある。例えば、「アメリカの精神分析学者のエリクソンによって提唱された人格発達理論はなにか。」という問題が出題されたとして、「ライフ・サイクル」が正答であると自動採点機能に設定する。しかし、「人生周期」「ライフ・ステージ」も参考にする文献によっては正しいとされている。つまり先述のように正答を一つ設定するだけではこのような言い換えに対応ができないのである。さらに、「ライフ・サイクル」

の「・」のない回答も設定によって不正解となる場合もある。講義で使われた語彙、用語を用いれば良いという問題ではなく、講義の内容について深い理解をしている者ほど不正解になるリスクを孕んでいることが大きな問題である。

このように、E-Learning プラットホームのデジタル面における弱点が露呈している。E-Learning プラットホームの提供企業への改善の要請、受講者への試験の正答の開示を常習的に行い受講者側から教員側へ試験問題についてアプローチしていくことのできる環境を作るべきである。

#### 4. 学生に向けた課題の適切な量について

大学教員はオンライン授業への移行に伴って、過去の対面授業と変わらない授業の質を維持することを求められ、その対応として課題を増やす、つまりは学生の自習時間を確保させる対応を行った。その影響から、全国の大学生からは課題の量が多すぎるという声が上がっている。課題の量が適切であるかの指標については大学設置基準<sup>6</sup>における学修時間の目安が参考になる。文部科学省の省令である大学設置基準第 21 条では授業時間に加えて授業外学修時間を 1 単位当たり 30～45 時間の学修時間を確保するように求めている。そのため、学修時間の確保の名目で課題を提示する場合、この基準を逸脱しかねない量ではないかどうかについて教員側は留意する必要がある。さらに教員自身が受講者から提出された課題の内容を確認し、フィードバックを行うことのできる量、もしくは内容を確認し正当な評価ができる課題の量にしなければならない。課題提出におけるフィードバックは受講者の知識や関心を向上させ、新たな知見を広げる機会でありモチベーションに繋がるものである。<sup>7</sup>教員自身が負担に感じる課題の提示は推奨されるものではない。

#### 5. オンライン授業におけるアカデミックハラスメントの危険性について

現代ではあらゆる分野、環境において新たなハラスメントが生み出されている。それはオンライン授業においても例外ではない。ハラスメントを行う当事者にとっては無意識に行ってしまう者も少なくない。オンライン授業において行われるハラスメントは受講者と教員との間で直接顔を会わせることなくメール越し、画面越しで行われることがほとんどである。顔や表情が見えない分、恐怖や不快感が生じやすくなっていることも特徴である。そのため、大学教員はハラスメントに該当する行為を行うことのないように、ハラスメント行為への理解を深めておかなければならない。メール越しで受講者を貶すことや、他の受講者と比較する、プライバシーや人格を侵害する内容の文章を送信することなどはすべてハラスメントに該当する。受講者とのやりとりが必要となった場合、ハラスメントに該当するような必要のない内容は書かない、どのような受講者であっても丁寧で誠実な対応を行うことが求められる。同時双方向型授業においては教授側が学生側の状況や環境を考慮せず顔

や部屋を映すように強要するハラスメントも発生している。顔に傷を抱えている、用意できる環境が劣悪である場合など、受講者には多くのバックグラウンドが存在している。受講者側から要望があった場合にはそれらを適切に反映することが求められるだろう。

## 6.オンライン授業と対面授業の併用について

オンライン授業には多くの問題があると同時に多くの利便性も存在している。複製不可の配布物がなく、単なる説明会などの場合はオンデマンドで行うことで時間に融通が利くようになる。休校になった際の授業の代替もオンライン、もしくはオンデマンドで行うことも可能であるため、新型コロナウイルス収束後も併用していくべきである。

## 7.さいごに

オンライン授業を今後も継続していく際には、多くの支援が必要である。配布されたレジュメの印刷にかかる費用、インターネット環境の整備費といった経済的な支援、不安や疑問を解消するための相談環境を整備し教職員と学生の技術面や精神面での支援を行っていくなどの対応も必要となるだろう。給付金の継続的支給を行うことや、相談手続きの簡略化で迅速に相談への対応ができるようにするなど対策についても講じていかなければならないだろう。しかし、それでも学生側においては厳しい環境であることは間違いない。自宅学習の毎日であるが故に多くの単位を落とす者、友人作りのタイミングを失い孤独を感じる者、大学に在学する価値を見出せずドロップアウトしていく者など、課題は多い。これらを克服していくためには、大学側と学生側の相互理解が今まで以上に必要となるのではないだろうか。

## 参考文献

<sup>1</sup> <https://www3.nhk.or.jp/news/special/coronavirus/chronology/>

特設サイト 新型コロナウイルス時系列ニュース|NHK 2020年12月22日閲覧

<sup>2</sup> [www.hc.u-tokyo.ac.jp](http://www.hc.u-tokyo.ac.jp)

新型コロナウイルス感染症関連時系列記録 2020年12月22日閲覧

<sup>3</sup> [https://www.jstage.jst.go.jp/article/konpyutariyoukyouiku/42/0/42\\_31/\\_pdf/-char/ja](https://www.jstage.jst.go.jp/article/konpyutariyoukyouiku/42/0/42_31/_pdf/-char/ja)  
授業における挙手・発言とタブレット端末を活用した発信・交流との児童の意識の比較  
p 31 福島耕平・下村勉 共著 2017/06/01 公開

<sup>4</sup><https://scrapbox.io/utdh/%E3%82%AA%E3%83%B3%E3%83%A9%E3%82%A4%E3%83%B3%E8%AC%9B%E7%BE%A9%E3%81%AE%E9%80%9A%E4%BF%A1%E9%87%8F>  
オンライン講義の通信量 大向一輝 2020年3月31日 公開 2020年4月22日更新

<sup>5</sup> <http://database.asahi.com/library2/main/top.php>

千葉商科大、遠隔授業を工夫 静止画と音声で 動画は大容量、通信費に懸念 /千葉県三嶋伸一 2020年07月02日発行

---

<sup>6</sup> [https://www.kyoto-u.ac.jp/uni\\_int/kitei/reiki\\_honbun/w002RG00000949.html](https://www.kyoto-u.ac.jp/uni_int/kitei/reiki_honbun/w002RG00000949.html)

大学設置基準 第21条 文部省令第28号 昭和31年10月22日公布

<sup>7</sup> <http://www.cshe.nagoya-u.ac.jp/tips/basics/support/index.html>

授業時間外の学習を促す 7.1.2 2020年12月22日閲覧

[https://rikkyo.repo.nii.ac.jp/index.php?action=repository\\_view\\_main\\_item\\_detail&item\\_id=6805&item\\_no=1&page\\_id=13&block\\_id=49](https://rikkyo.repo.nii.ac.jp/index.php?action=repository_view_main_item_detail&item_id=6805&item_no=1&page_id=13&block_id=49)

オンデマンド授業 京角紀子 2006年

<https://ci.nii.ac.jp/naid/110009466756>

Study on a Method of Estimating Learners' Subjective Impressions of the Difficulty By Their Learning Actions for e-Learning on Demand

大川内隆郎 大谷淳 米村俊一 (他) 徳永幸生 共著 2011年12月8日刊行

<https://shonan->

[it.repo.nii.ac.jp/?action=pages\\_view\\_main&active\\_action=repository\\_view\\_main\\_item\\_detail&item\\_id=92&item\\_no=1&page\\_id=34&block\\_id=96](https://shonan-it.repo.nii.ac.jp/?action=pages_view_main&active_action=repository_view_main_item_detail&item_id=92&item_no=1&page_id=34&block_id=96)

e-Learning 利用の現状と課題 牧紀子 2007年3月18日発行

<https://www.riasec.co.jp/hiroba/archives/19843>

約80%の学生が「課題の量」にストレス——関西大学「オンライン授業に対する学生の本音」アンケート調査 2020年11月5日公開

<https://note.com/jbnrsk/n/n6b03de0531fa>

オンライン授業におけるハラスメント Arata 2020年12月22日閲覧